12

原子力施設の運転状況

12-03

試験研究用原子炉と研究開発段階の原子炉

12-03-01

試験研究用原子炉の事故・故障・トラブル統計

12-03-01-06

昭和60年度試験研究用原子炉における事故・故障

<概要>

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」の規定に基づき、昭和60年度に報告がなされた事故・故障の件数は7件であった。

<更新年月>

1999年08月

(本データは原則として更新対象外とします。)

<本文>

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」(以下、「[原子炉等規制法](#)」という。)の規定に基づき、昭和60年度に報告がなされた事故・故障の件数は7件であった。

これら7件の事故・故障等の内訳は、運転中に発生したものが6件で、停止中に発生したものが1件である。運転中に発生したもののうち原子炉が自動停止したものは5件、手動停止したものは1件であった。

これら7件の事故・故障等を管理要素別に分類すると、[保守管理](#)が不適切であったものが3件、操作が不適切であったものが3件、その他1件であった。

なお、以上のいずれの事故・故障等においても原子炉施設周辺環境への影響はなかった。

この他、昭和56年9月1日付け科学技術庁(現文部科学省)長官通達に基づき、報告のあった軽微な故障が3件あった。

昭和60年度の試験研究用原子炉及び研究開発段階にある原子炉における故障・トラブル等についての概要を [表1](#) に示す。

(原子炉等規制法に基づく報告)

<関連タイトル>

[原子力施設の故障・トラブル・事故の国際評価尺度 \(11-01-04-01\)](#)

[昭和60年度試験研究用原子炉における従事者被ばく状況 \(12-03-03-07\)](#)

<参考文献>

(1) 原子力安全委員会編(1986):昭和60年度の試験研究用及び研究開発段階にある原子炉施設における事故・故障等の概要、昭和61年版原子力安全白書、321.

(2) 科学技術庁原子力安全局編(1986):昭和60年度の試験研究用原子炉及び研究開発段階にある原子炉における事故・故障等について、原子力安全委員会月報7月号、通巻94号、39-40.

表 1 昭和60年度の試験研究用原子炉施設及び研究開発段階にある原子炉施設における故障・トラブル等についての概要

発生年月日	原子炉施設名	故障・トラブル等の概要
60.10.7	原研大洗研究所 JMTR	定格出力50MWで運転中、照射設備の制御系電源の負荷が遮蔽器の定格容量を越えたため遮蔽器が作動し、原子炉が自動停止した。
60.11.9	動燃新型転換炉 心げん発電所	定期検査における燃料装荷作業の一環として新燃料集合体を燃料貯蔵プールから燃料交換プールへ移送中、新燃料集合体（照射用36本燃料集合体）下端部が燃料受渡プール内の移送容器レバーに接触し損傷した。
60.11.15	京都大学 KUR	定格出力5MWで運転中、圧気輸送管を用いた照射後カプセル試料の取出しが不調のため、安全保護回路が作動し、原子炉が自動停止した。
60.12.18	動燃新型転換炉 心げん発電所	定期検査の一環として原子炉を低出力運転中、原子炉運転モードスイッチを「起動」から「運転」に切り換えたところ、同切換に係るリレーの接触不良により原子炉が自動停止した。
60.12.18	京都大学 KUR	定格出力5MWで運転中、非常用電源を商用電源との切換器に供給される直流電源を誤って遮断したため、安全回路が作動し、原子炉が自動停止した。
61.1.13	動燃新型転換炉 心げん発電所	定格出力16.5万Kweで運転中、SCCにより原子炉冷却材浄化系配管から微量の冷却水が漏洩したため原子炉を手動停止した。
61.2.13	動燃新型転換炉 心げん発電所	原子炉出力を上昇中（約10%出力）、手動による蒸気ドラムの水位制御において給水流量と蒸気流量のミスマッチが生じ、蒸気ドラムの水位が低下して原子炉が自動停止した。

[出典]原子力安全委員会編（1986）：昭和60年度の試験研究用及び研究開発段階にある原子炉施設における事故・故障等の概要、昭和61年版原子力安全白書、321。